

李朝初期の畫山水にして早くから我在つたものはその數極めて多かるべく、是が我が墨畫壇に及ぼした影響は甚だ注意を要する問題ながら、之を實際に徴し得る作例の寥寥たる事は宋元畫のそれに比して一層である。たとへば最も著聞する大願寺の八景屏風は下つて天文の例に過ぎず、早く絶海中津應永十二年叙の贊した伏見親王府の山水相國寺藏は寧ろ元畫説の従ふべきを思はせ美術研究第一八、號熊谷氏解説、永の詩軸の一代表芭蕉夜雨圖も、畫風上の特色より之を立證すればとにかく、尠くも其贊者の一人に半島の通信使梁需の在ることからはこれを朝鮮畫とする理由は見出せない美術研究第八號熊谷宣夫氏「芭蕉夜雨圖考」。茲に掲げた圖は今春の東京美術學校春季特別展觀に初めて引く紹介された一作であるが、技の高下は問はず、この意味に於て一の興味ある資料となるものと思はれた。

贊者含空道人は諱德甫、字惟宗、東福百十三世、天龍百二世、南禪百六十七世位を歴住して文正元年三月六日、世壽九十七歳を以て示寂したと云ふ。東福寺誌にその傳を引いて天龍出世を嘉吉元年九月、南禪入山を文安五年九月とし、なほ東福住山に際して顯山義持の證明を獲たと傳へてゐるから、之は遡つて應永中を下らざるものと推定される。贊は五律一章、詩書共に當時の五山僧の通態に従ふと云ふべきか。關防の「空相道人」はまたその一號でゞもあるものであらう。

圖は述べるまでもなく近岸に一廓の屋舎を片寄せて、驢背に跨り侍者を従へて橋上を過ぎる人物を中心としつゝ、遙に浮ぶ一舟の彼方の洲渚には、むら立つ吹墨に沛然たる山雨を見せる。橋下の驚波、搖ぐ竹叢に馬の足搔きも自ら忙しきを思はせるあたり、意の足るものはあるが、その筆は寧ろ脆軟とも評すべく、なほ樹根、坡脚を繪かず、壁柱を除いて藁のみを竝べたのは或は霧裡の景として許すにせよ、布置の様さへ定かならぬ遠景の漫氣に満つるさへあるに、更にその彼方に一二ならず帆影を浮べたのは抑如何なる意か。唯間、藍を交へた全面の中墨調が、處々に輕爽の態を示してゐる點には思はざる親しさはある。併し吾人をして殊更な注意を向けしめるのは本圖の年代である。假に惟宗の

著贊を嘉吉文安の頃とすれば、その製作は尠くも世宗朝を下るべきでない。此圖、淡墨の數筆塊を以て揮拂し去つた風樹の形、或は近岩の面に縱横に塗抹した皴擦等に、強いて求めてかの牧溪筆と云ふ八景圖殊に遠浦歸帆の如きに先蹤といふものを見、または惟宗の所謂玄圃の山形に多少奇古の趣なしとせぬとは云へ、固よりかの八景の骨氣は求むべくもなく、また概ね朴茂を旨とした我が詩軸の比にもあらで、ひたすらに淡潤の態を逐ふ。之を李上佐以前、崔涇、安堅の盛時、安平大君の藏儲に北宗畫の多きを誇つて、時風に向ふ所も主として彼處に在つたかと思はれる頃の作品とすることは、何人にも多少意外の感があるのではあるまいか。而も之が早く周文の時代から我が叢林の間に披玩され來つたとすれば、その及んだ所は知らず、正に一の珍蹟の列に加へて可なるものであらう。

## 美術研究所時報

### 寄贈圖書

- 遍照發揮性靈集  
扶桑紀年銘鏡圖説 廣瀬都巽編  
(大阪市立美術館學報第一)  
シーボルト研究 日獨文化協會編  
啓明會第八十一回講演集  
啓明會第八十二回講演集  
建築年鑑 昭和十三年版  
日伊學會年報 第一號  
日本古文化研究所報告 第八  
國寶聖神社修理工事報告  
六朝時代の服飾 原田淑人(東洋文庫論叢)  
鳥類寫生圖譜 第四輯—第十二輯
- 育 德 財 團  
大 阪 市 立 美 術 館  
日 獨 文 化 協 會  
啓 明 會  
同  
建 築 學 會  
日 伊 學 會  
日 本 古 文 化 研 究 所  
國 寶 調 査 室  
東 洋 文 庫  
啓 明 會

白隠禪師遺墨集  
 説々莊藏古璽印

大阪市立美術館  
 藤井善助氏

塔影 一四〇八  
 美術評論 七〇二

日本美術協會報告 四九

石川縣神社佛閣古美術概観 一

石川縣

Bulletin of the Metropolitan Museum of Art, Vol. 33, No. 6, 7  
 Bulletin of the Cleveland Museum of Art, Vol. 25, No. 6

Henry E. Huntington Library and Art Gallery

Tenth Annual Report 1936—1937

Huntington Library.

Pantheon, Vol. 21, No. 6

林泉 四三—四五

建築研究 一〇ノ五、六

Ostasiatische Zeitschrift, 13 Jahrg., Heft 6

書畫骨董雜誌 三六一—三六三

繪畫教習 六〇七

Bulletin of the Museum of Fine Art, Boston, No. 216

燒もの趣味 四〇七—四〇九

工藝ニュース 七〇七、八

Monseion 41—42

みづゑ 四〇一—四〇三

貨幣 二二三、二三三

Sinica, VIII Jahrg., Heft 1/2

思想 一九四—一九六

美術街 五〇四

美育 一四〇七—九

國際建築 一四〇七

教育美術 四〇七、八

美術春秋 一四〇二

畫說 一九、二〇

南畫鑑賞 七〇七、八、九

帝國工藝 一二〇七

史迹と美術 九〇七、八

汎工藝 一六〇六、七

漆と工藝 四四五

史蹟名勝天然紀念物 一三〇七、八

文部時報 六二二—六二七

美之國 一四〇七、八

都市と藝術 二八〇

東京美術 一四

書道 七〇八、九

最高美術 七〇七—九

文學 六〇七—九

學校美術 一二〇八、九

圖畫と手工 二三〇

茶わん 九〇、九一

日本建築士 二二〇、二二一

史苑 一二〇一

建築雜誌 六四〇、六四一

藝術資料 三〇五

アトリエ 一五〇一

白日 一二〇五、六

史學 一七〇一

三田評論 四九一

國寶 一〇一—四

美術眼 二〇八

新建築 一四〇七、八

美術 一三〇八、九

産業工藝 一〇三

美術世界 二〇八、九

史蹟と古美術 二一〇一

美術界 八〇四

帝國圖書館報 三一〇—一四